

# 総会報告

## 第4回定時総会報告

日 時：平成26年3月20日(木) 13時00分～14時30分

会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）

出席代議員数：48名（内委任状32名）

（代議員数総数：55名、総会成立の定数28名以上）

### 議 案：

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 平成25年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成25年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成26年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成26年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成26年度役員の内 | 【第3号議案】 |

### 議 事：

午後1時00分、定款第15号に基づき小平紀生会長が議長となり、出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第4回定時総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第1号議案】

#### 平成25年度 事業報告

（自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日）

#### I. シンポジウム（継続事業1）[事業理事 他]

##### 1. 2013年度概要

- (1) ロボット教育セミナー「からくり工作教室」  
期 日：7月20日(土)、27日(土) 東芝科学館  
対 象：小学校4～6年生 参加無料  
講 師：半屋春光（からくり人形師）  
内 容：からくり人形の実演を交えた解説、東芝科学館の見学の後、参加者によるからくりの製作と発表  
参加者：35名（7/20）、40名（7/27）
- (2) インターナショナルロボットハイスクール（IRH2013）  
期 日：11月7日(木)、8日(金) 東京ビッグサイト（国際ロボット展2013 併催）  
対 象：国内外の高校生・高専生 参加無料  
講 師：広瀬茂男（東京工業大学）、野田哲男（三菱電機）  
内 容：当学会の教育事業の一環として、国内外の高校生を対象とし工学教育事業を実施。ロボット工学の基礎につき座学で講義を聴講、国際ロボット展にて展示物の課題付の調査研究、調査結果および各校の普段のロボット工学教育の実践について発表（公開）を行った。上記の活動や情報交換を通じ国際交流を体験してもらう。  
参加者：109名、19校、内国外：18名、3校（ノルウェー、米国、中国）  
公开发表聴講者：75名（推定）
- (3) 産学連携国際フォーラム「プランニング・プログラミング技術の最新世界動向と産業用ロボット応用」  
期 日：11月8日(金) 東京ビッグサイト（国際ロボット展2013 併催）  
講 師：圖子憲司（三菱電機システムサービス）、岩佐達樹（デジタルプロセス）、Quang-Cuong Pham（シンガポール南洋理工大学）、Satyandra K. Gupta（米国メリーランド大学）、Jean-Paul Laumond（フランス LAAS-

CNRS）、Dinesh Manocha（米国ノースカロライナ大学）

内 容：重要テーマにおいて、産と学で歩み寄り、国際レベルで問題点の共有と今後の連携強化をはかる（テーマ：産業用ロボットのプランニング・プログラミング）。「産」から：その産業応用の現状分析と課題提起。「学」から：世界的に著名な研究者による最新研究動向の紹介。

参加者：150名（延べ）

#### 2. 学術講演会公開行事

- (1) 特別行事
    - 1) 特別併設シンポジウム「介護・リハビリ・自立のための実用的なロボット技術の創出」
    - 2) 特別講演「メイド・イン・ジャパン」  
来場者数：300名（平均）
  - (2) 併設行事
    - 1) 第31回日本ロボット学会学術講演会 企画シンポジウム「学会誌・欧文誌の現状と未来」
    - 2) 講演、デモ「科学館におけるパーソナルモビリティ“UNI-CUB”の実証実験」
    - 3) 文部科学省大学間連携共同教育推進事業 KOSEN 発“イノベーション・ジャパン”プロジェクトワークショップ「社会実装ロボット教育」
    - 4) シンポジウム「災害対応ロボティクスシンポジウム」
    - 5) シンポジウム「原子力ロボットの記録と提言の最終報告会」  
来場者数：200名（平均）
  - (3) 一般公開パネルディスカッション、セッション
    - 1) パネル討論「日本を支える急成長介護ベンチャーが語る介護の現状とロボットへの期待と課題」
    - 2) チュートリアル OS「ロボット基礎講座」
    - 3) SS、OS 製造業用ロボットの技術イノベーション
    - 4) SS 日本ロボット学会の次世代構想
    - 5) OS システム運用空間における電磁環境～ロボット技術・情報通信技術を安心安全に運用できる電磁環境空間～
    - 6) OS ヤングロボットセッション／ロボット感動教育
  - (4) ロボットコンテスト  
RSNP を利用したロボットサービスコンテスト
  - (5) ロボット工作教室
    - 1) ロボット教室「ロボットデザインワークショップ」
    - 2) ロボット工作教室「テオヤンセン機構の体験会」
    - 3) ロボット教室「教育版 LEGO Mindstorms EV3 を体験しよう」
  - (6) 展示デモ・見学交流会
    - 1) 展示「首都大：システムデザイン学部インダストリアルアートコース」
    - 2) UNI-CUB 試乗体験会
    - 3) ロボット展示「TOKYO・多摩のロボットテクノロジーでまちづくり」
    - 4) 学生のための交流サロン
    - 5) 東急建設見学会
- #### II. 学会誌（継続事業2）[学会誌理事]
- 学会誌第31巻1号～10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。
- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| 第31巻1号 | 次世代ロボットのための知能化技術         |
| 第31巻2号 | ロボット教育論文特集号              |
| 第31巻3号 | ロボティクス研究のためのソフトウェアツール II |
| 第31巻4号 | マニピュレーション研究の最前線          |
| 第31巻5号 | 材料の知                     |

- 第31巻6号 人間環境と親和性の高いロボットのためのアクチュエータ
- 第31巻7号 日本ロボット学会第30回記念学術講演会論文特集号I
- 第31巻8号 日本ロボット学会第30回記念学術講演会論文特集号II
- 第31巻9号 ロボットのエージェンシーとインタラクション
- 第31巻10号 日本ロボット学会—日本SF作家クラブ 共同企画—ロボット工学とSF—

特集号企画については、会員の幅広い興味に応えられるように、知能、機構、制御、センシングなど多様な分野に関する特集を企画した。また、昨年30周年を迎えた日本ロボット学会と今年50周年を迎えた日本SF作家クラブとのコラボレーション企画によるSF特集号を発行した。今年度7年めを迎えた学術講演会論文特集号は、定番企画として定着している。普段投稿が少ない研究分野からの論文投稿を促し、投稿件数が増えることでより質の高い論文が多く掲載されるなど、ロボット学を活性化させる重要な役割を担っている。今回は、昨年、札幌コンベンションセンターで開催された第30回記念学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対し、220件の論文投稿を推薦し49件の投稿を得て、査読結果に基づき最終的に2号合計で22件の論文を掲載した。本年度は、学術講演会論文特集号に加えて、「ロボット教育論文特集号」の論文特集号も発行した。論文の査読では狭い意味での学術的なオリジナリティが重視されがちである。しかし、実際に役立ち、研究コミュニティが共有すべき情報を含んだものは積極的に論文に採録する必要があると考えて、この特集号を企画した。

日本ロボット学会は和文誌と欧文誌の両方を発刊しており、双方の強みを活かしてロボット学の活性化、日本ロボット学会の発展に寄与できればと考えている。今年の学術講演会では、今後の会誌の方向性を考える企画シンポジウムを開催した。

年間の論文投稿件数は162件（前年度184件）、判定結果は採録可49%（50%）、採録不可（再投稿を推薦）36%（27%）、採録不可15%（23%）であった。判定までの期間は平均111日、最短38日、最長258日（93日、29日、195日）で、掲載までの期間は平均337日（289日）であった。再投稿を推薦した論文の再投稿率21%（38%）、採択率89%（88%）であった。なお、評価点項目別の採択率は、学術性52%、有用性47%、提案性50%となっている。また、システム統合化技術、実環境における実証実験、ロボットと社会のかかわりや教育など従来では学術論文として採録が困難であった分野の論文の投稿を積極的に奨励し、適切に採録できるような査読システムの見直し、それに伴う規則・規定の改訂を行った。さらに、JSTへの申請が採択され、論文投稿・査読システム Scholar One Manuscript を平成26年3月下旬から導入する予定で準備を進めており、論文投稿者や査読者および編集委員や事務局の負担軽減が期待される。

一般記事に関しては、ロボティクス関連の国内外の様々な学会に関する報告を掲載した。また、27巻1号から開始した著名な研究者や企業の方々、アドバイザーボードを対象としたインタビュー形式の記事を引き続き掲載した。学会および学会誌の広報普及活動として、ロボコンマガジンにロボット学会協力記事として中高生から一般向けにロボット研究・技術について紹介する記事を掲載しており、その執筆者を推薦した。ロボット工学の位置づけを一般の方々にもご理解いただくため、学術的な研究紹介とともに親近感を持つ成果や実用的な研究紹介を合わせて掲載されるようにした。

これまで、学会誌のインターネットを通じた閲覧は三美印刷の提供するシステムとJSTの提供するJ-STAGEの二つがあったが、平成24年5月からJ-STAGEに一本化された。ただし、J-STAGEでは会告等はアーカイブされないため、これについては学会のホームページにPDF化した会告を掲載するようにした。さらに、学会誌を補遺する電子付録的なものも学会ホームページに掲載することを始めた。

広告の年度集計結果に関しては、学術講演会での展示企業などへの広告勧誘活動などを実施したが、件数は前年度の72件から62件に減少した。金額は3,217,070円であり、年度目標金額550万円に対して58.5%と、昨年度の88%から大きく落ち込んでしまった。今後、これまでの勧誘活動だけでなく、新たな展開を検討する必要がある。

### III. 欧文誌（継続事業3）[欧文誌理事]

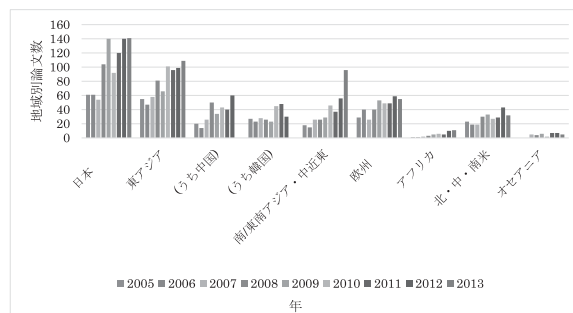
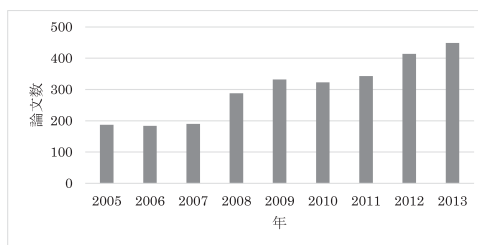
#### 1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 27 を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

27/1	2013 Jan 04	Cutting Edge of Robotics in Japan 2013 (1) (6 papers/80 pages/1-80)
27/2	11-Jan	Regular Issue (6 papers/78 pages/80-158)
27/3	28-Jan	Regular Issue (6 papers/73 pages/159-232)
27/4	15-Feb	Regular Issue (6 papers/75 pages/233-308)
27/5	8-Mar	Safety, Security and Rescue Robots (7 papers/96 pages/309-405)
27/6	15-Mar	Regular Issue (6 papers/74 pages/406-480)
27/7	12-Apr	Cutting Edge of Robotics in Japan 2013 (2) (7 papers/85 pages/481-566)
27/8	10-May	Regular Issue (6 papers/83 pages/567-654)
27/9	28-May	Aerial Robots (6 papers/79 pages/655-738)
27/10	14-Jun	Regular Issue (6 papers/72 pages/739-811)
27/11	5-Jul	Regular Issue (6 papers/91 pages/813-906)
27/12	12-Jul	Regular Issue (6 papers/67 pages/907-977)
27/13	16-Aug	RAAD2012 (6 papers/65 pages/979-1043)
27/14	13-Sep	Regular Issue (7 papers/90 pages/1045-1135)
27/15	30-Sep	Regular Issue (7 papers/81 pages/1137-1220)
27/16	11-Oct	Regular Issue (6 papers/77 pages/1221-1300)
27/17	8-Nov	Regular Issue (7 papers/80 pages/1301-1384)
27/18	15-Nov	Regular Issue (7 papers/89 pages/1385-1476)

#### 2. 論文の投稿、査読の状況

平成25年（2013年）における年間論文投稿総数は449件（新規投稿論文・291件、再投稿論文・158件）であった（下表参照）。投稿論文の採択率は、31.1%であった。

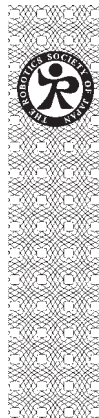


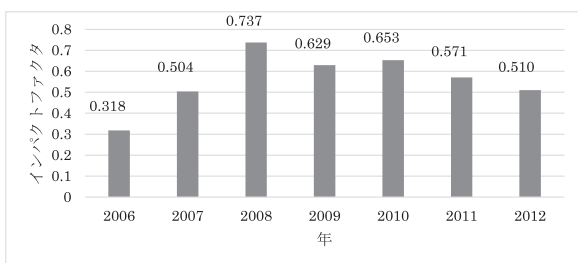
#### 3. 企画 / 編集 / 発行作業

投稿論文数の増加を目指して、昨年同様、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

#### 4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index（インパクトファクタ）の推移を以下に示す。2010年に18号化となり、掲載論文数が増加したこともあり、インパクトファクタは減少している。投稿料無料という著者に対するメリットと、Taylor & Francis社との連携を通して、インパクトの高い論文数を増やすことで、インパクトファクタ向上を進めていく。





5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2014 年 (Vol. 28) 年間発行数: 24 号

1. 会員全員の電子購読料金 26,664 ユーロ/年
2. RSJ へ支払われる編修料 15,000 ユーロ/年
3. プリント版 会員価格 400 ユーロ/Volume

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ1ヵ月以内で対応可能である。2013 年の投稿から、採録可否決定までの平均日数は約 75.5 日であり、投稿から比較的短期間で電子出版が可能になるように改善した。

IV. 調査・研究 (継続事業 4) [企画理事]

1. 研究調査活動 (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して、以下の研究専門委員会活動を実施。

a. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種別
生活創成支援ロボティクス研究会	小笠原司	2013 年 5 月	—	II 種
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012 年 4 月	—	I 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	—	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	2012 年 3 月	I 種
生活機能構成学に関する研究専門委員会	西田佳史	2009 年 10 月	2011 年 4 月	I 種
RT 機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
ロボット教育研究専門委員会	琴坂信哉	2008 年 8 月	2012 年 8 月	II 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	小林幸徳	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
カー・ロボティクス研究専門委員会	大日方五郎	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
ロボティック・サイエンス研究専門委員会	國吉康夫	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
手の巧みさ研究専門委員会	星野 聖	2007 年 1 月	2013 年 1 月	II 種

ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007 年 1 月	2013 年 1 月	II 種
----------------------------------	-------	------------	------------	------

なお、生活機能構成学に関する研究専門委員会 (委員長: 西田佳史) については、2013 年 3 月末で、手の巧みさ研究専門委員会 (委員長: 星野 聖) については、2013 年 12 月末で終了とした。

b. 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
産学連携委員会	小平紀生	2013 年 5 月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013 年 1 月
東日本大震災関連調査研究委員会	川村貞夫	2011 年 11 月

c. 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013 年 10 月

V. 表彰 (継続事業 5) [企画理事]

1. 表彰 (定款第 4 条 4 号)

2013 年 9 月第 31 回学術講演会において、学会誌論文賞 3 件、新設された Advanced Robotics Best Paper Award を 3 件、実用化技術賞 1 件、研究奨励賞 7 件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞 2 件、ロボット活用社会貢献賞 1 件、功労賞 1 件の贈賞を行った。

【論文賞】

- ・アクティブビジョンの高速化を担う光学的視線制御システム (日本ロボット学会誌 第 29 巻 第 2 号, pp. 201-211) 奥村光平, 奥 寛雅, 石川正俊 (東京大学)
- ・Levenberg-Marquardt 法による可解性を問わない逆運動学 (日本ロボット学会誌 第 29 巻 第 3 号, pp. 269-277) 杉原知道 (大阪大学)
- ・筋拮抗比の概念に基づくヒト歩行動作の運動要素分解 (日本ロボット学会誌 第 30 巻 第 5 号, pp. 524-533) 平井宏明, 飯村太紀, 井上恵太, 宮崎文夫 (大阪大学)

【Advanced Robotics Best Paper Award】

- ・Dynamic Rolling-Walk Motion by the Limb Mechanism Robot ASTERISK (Advanced Robotics, Volume 25, Issue 1-2, pp. 75-91) Chayooth Theeravithayangkura, 田窪朋仁 (大阪市立大学), 大原賢一 (名城大学), 前 泰志, 新井健生 (大阪大学)
- ・Real-Time Quadratic Sliding Mode Filter for Removing Noise (Advanced Robotics, Volume 26, Issue 8-9, pp. 877-896) 金 山海, 菊植 亮, 山本元司 (九州大学)
- ・Online Object Categorization Using Multimodal Information Autonomously Acquired by a Mobile Robot (Advanced Robotics, Volume 26, Issue 17, pp. 1995-2020) 荒木孝弥 (電気通信大学), 中村友昭 (HRI-JP), 長井隆行 (電気通信大学), 船越孝太郎, 中野幹生 (HRI-JP), 岩橋直人 (京都大学)

【実用化技術賞】

- ・三次元形状計測ユニット MotoEye-3D (モートアイスリーディー) 入江俊充, 香掛史典, 安田裕也, 伊藤俊樹, 一丸勇二 ((株) 安川電機)

【研究奨励賞】

- ・池田貴公 (筑波大学) MRI 適合性を有する下肢動作提示システムの基本性能評価 第 30 回学術講演会 / 4C3-3
- ・大脇浩史 (名古屋大学) バイオニックシミュレーターニワトリ胚の心臓とマイクロ流体デバ



イスの一括接続法—

第30回学術講演会／1E2-5

・金 天海 (HRI-JP)

局所線形性を利用した非線形動作最適化手法

第30回学術講演会／2F1-1

・庄司 観 (東京農工大学)

昆虫搭載型電源に向けた体循環システムの開発

第30回学術講演会／3E2-2

・白土浩司 (三菱電機)

複数台の産業ロボット間での干渉チェック方式開発

第30回学術講演会／4G3-6

・原 祥亮 (筑波大学)

Bayesian アプローチに基づき過信を防いだ Point Cloud マッチング

による自己位置推定の定式化

第30回学術講演会／4J1-5

・廣瀬徳晃 (豊田中央研究所)

ヒト並みの運動性能を有する小型移動体の実現—第3報 横加速度を用いた姿勢安定化制御—

第30回学術講演会／1G2-1

#### 【ロボティクスシンポジウム研究奨励賞】

・中島康貴 (早稲田大学)

片麻痺患者の歩行訓練支援に向けた理学療法士の介助動作を再現するロボットの開発

第18回ロボティクスシンポジウム／1A1

・入江 清 (千葉工業大学)

電子市街地図を用いた単一画像からの自己位置推定

第18回ロボティクスシンポジウム／2A2

#### 【ロボット活用社会貢献賞】

・北野幸彦 (パナソニック (株))

病院内搬送ロボットシステムの実用化による人と共存するサービスロボットの普及に対する貢献

#### 【功労賞】

・浅間 一 (東京大学), 田所 論 (東北大学), 中村仁彦 (東京大学)

災害対策ロボット実用化政策の推進

#### VI. 国際 (継続事業 6) [国際理事]

##### 1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
  - ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
  - ・Asian Robotics Society Union (ARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協体制の活性化
- の三つを柱に活動を行った。

2. 第31回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施  
9月4日～6日に首都大学東京南大沢キャンパスにて開催された第31回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。昨年に引き続き、国際セッションの発表のみの予稿をまとめて製本した予稿集を発行した。また、国際セッションのみの参加の費用については、今年も無料とした。

今年度の第31回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の四つのセッションがオーガナイズされ、計26件の論文発表があった。40件を超えていた過去2年間と比べるとやや少ない件数となった。

・Humanoids and Human-centered Robotics 7件

・Assistive Robotic 8件

・Robotics Research by Foreign Researchers in Japan 7件

・Applications of Computational Intelligence 4件 (合計26件)

なお、来年度からは国際セッションは有料化し、一般のOSと同様な枠組みでの実施を行うこととなった。ただし、登壇者に会員資格を求めず、予稿は1～4ページの範囲で自由とする。

##### 3. 国際交流活動

第8回アジアロボット学会連合サミットミーティング (8th Asian Robotics Society Union Summit Meeting) をIROS2013の会期中に開催した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である。

日 時: 2013年11月5日 12:30-13:30 (IROS2013期間中)

場 所: IROS2013会場内会議室

参 加 者: (メンバー学会のアルファベット順で表記)

[ARAA] (Australia and New Zealand)

・Bruce MacDonald, University of Auckland, New Zealand (New Zealand Representative of ARAA)

[KROS] (Korea)

・Wan Kyun Chung, President of Korea Robotics Society, Korea

・Sang-Rok Oh, Korea Institute of Science and Technology, Korea (Ex-President of KROS)

・Jae-Bok Song, Korea University, Korea (President-Elect of KROS)

[RSI] (India)

・Subir K. Saha, IIT Delhi, India (Treasurer of RSI)

[RSJ] (Japan)

・Norio Kodaira, President of Robotics Society of Japan, Japan

・Yasuyoshi Yokokohji, Kobe University, Japan (Ex-Director of RSJ)

・Akihiro Matsumoto, Toyo University, Japan (Ex-Director of RSJ)

・Yasuhisa Hasegawa, University of Tsukuba, Japan (Director of RSJ)

・Yusuke Maeda, Yokohama National University, Japan (Director of RSJ)

##### 主な議題:

- (1) 各学会の国際会議における ARSU セッション等の実施の検討
- (2) RSIの参加に伴う MoU 文面の更新の検討
- (3) 次回: IROS2014 期間中 (2014年9月14日～18日), KROS がホスト予定。

##### 4. 国際会議への対応

RSJ が共催となっている ROMAN と IROS に対し、以下のような活動を行った。

- (1) 22nd IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2013)

期日: 2013年8月26日～29日, 会場: 慶州, 韓国

8月26日 12:00-14:00 にステアリング会議が開催され、会長の代わりに国際担当理事1名が出席し、今後の開催計画やRSJの来年の負担率などを確認した。また、学際的研究を対象とする賞の新設を検討することにした。

- (2) 2013 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2013)

期日: 2013年11月3日～8日, 会場: 東京ビッグサイト (東京)

11月3日 11:30-15:00 にステアリング会議が開催され、会長、副会長、事務局長、国際担当理事1名が参加し、Conference Review Board の体制や今後の開催計画などを確認した。

また、11月6日 12:30-13:30 に、産業界から学術界への技術・商品アピールの場としてのランチ企画「RSJ Power Lunch」を開催し、計11社からの講演に150名ほどが参加した。

IROSの50周年記念に向けたメモリアルアイテムのTime Capsule 収納がバンケットにて行われ、学会にてTime Capsuleを2037年まで保管予定。



## 5. 情報発信, その他

日本ロボット学会英文ホームページのコンテンツの更新.

## 6. 国際会議共催/協賛

共催となっているROMANおよびIROSを含め, 本会に関連する国際会議を共催 (3件), 協賛 (16件), 後援 (1件) した.

## VII. 学術講演会 (その他事業 1) [事業理事]

## 1. 学術講演会

## (1) 第31回学術講演会

期 日: 2013年9月4日(水)~6日(金)  
会 場: 首都大学東京南大沢キャンパス  
組 織: 実行委員長: 山口 亨 (首都大学東京)  
プログラム委員長: 松日楽信人 (芝浦工業大学)

発表件数: 685件

セッション数: 111

一般講演 39 テーマ, オーガナイズドセッション 38 テーマ,  
展開セッション 5 テーマ, ストラテジックセッション 2 テーマ,  
国際セッション 4 テーマ

特別講演 講師: 作田和秋 代表 (デザイン戦略研究所合同会社)

タイトル: 「メイド・イン・ジャパン」

参加者数: 1,209名

正会員 (事前):	433名
学生会員 (事前):	404名
優待券利用の賛助会員 (事前):	8名
賛助会員 (事前):	5名
非会員 (事前):	26名
学生非会員 (事前):	31名
正会員 (当日):	198名
学生会員 (当日):	33名
優待券利用の賛助会員 (当日):	14名
賛助会員 (当日):	2名
非会員 (当日):	34名
学生非会員 (当日):	21名

懇親会 (招待者を含まず): 409名

## VIII. 講習会 (その他事業 2) [事業理事]

## 1. ロボット工学セミナー

## (1) 第76回セミナー「ロボットに利用できるコンピュータビジョン技術最前線: 基礎から応用まで」

期日: 2013年5月16日(木) 東京大学 (遠隔セミナー実験を実施)

講師: 橋本 学 (中京大学), 堀田一弘 (名城大学), 藤吉弘巨 (中部大学), 橋本浩一 (東北大学)

オーガナイザー: 木下航一 (オムロン)

参加者: 148名 (会員: 34名, 学生: 65名, 会員外: 21名, 賛助招待: 24名, 賛助優待: 4名)

## (2) 第77回セミナー「ロボットの作り方 2013 ~ パソコンを使ったメカトロ制御実習 ~」

期日: 2013年6月8日(土), 9日(日) 東京工業大学

講師: 小林 恒 (ジェイテクト), 松浦大輔 (東京工業大学) (+ 実習)

オーガナイザー: 松浦大輔 (東京工業大学)

参加者: 28名 (会員: 4名, 学生: 16名, 会員外: 6名, 賛助招待: 13名, 賛助優待: 1名)

## (3) 第78回セミナー「二足歩行制御とヒューマノイドロボティクス」

期日: 2013年6月27日(木) 名古屋大学 (遠隔セミナー実験, 機器展示を実施)

講師: 佐野明人 (名古屋工業大学), 神永 拓 (東京大学), 梶田秀司 (産業技術総合研究所), 高木宗谷 (トヨタ自動車)

オーガナイザー: 山本 江 (名古屋大学)

参加者: 47名 (会員: 16名, 学生: 23名, 会員外: 6名, 賛助招待: 3名, 賛助優待: 3名)

## (4) 第79回セミナー「力覚を利用したロボット制御の実際」

期日: 2013年9月17日(火) 中央大学 (遠隔セミナー実験を実施)

講師: 原口林太郎 (三菱電機), 安藤慎悟 (安川電機), 金岡克弥 (立命館大学), 川崎晴久 (岐阜大学), 川嶋健嗣 (東京医科歯科大学)

オーガナイザー: 中本秀一 (東芝研究開発センター)

参加者: 71名 (会員: 17名, 学生: 16名, 会員外: 16名, 賛助招待: 15名, 賛助優待: 7名)

## (5) 第80回セミナー「意味」や「状況」を扱うロボット技術—記号化・対話・ビッグデータ—

期日: 2013年10月9日(水) 東京大学 (有料遠隔セミナー, 研究室見学を実施)

講師: 高野 渉 (東京大学), 杉浦孔明 (情報通信研究機構), 松尾 豊 (東京大学), 原田達也 (東京大学)

オーガナイザー: 田中秀幸 (産業技術総合研究所)

参加者: 33名 (会員: 18名, 学生: 2名, 会員外: 9名, 賛助招待: 1名, 賛助優待: 0名, 有料遠隔参加: 3名)

## (6) 第81回セミナー「人間の行動原理・判断能力に迫る感性ロボット最前」

期日: 2013年10月23日(水) 東京工業大学 (有料遠隔セミナーを実施)

オーガナイザー: 野崎岳夫 (NECグリーンプラットフォーム研究所)

講師: 富山 健 (千葉工業大学), 青木義満 (慶應義塾大学), 野崎岳夫/ 栢沼浩一 (NECグリーンプラットフォーム研究所), 海野達哉 ((株) 前川製作所)

参加者: 16名 (会員 8名, 学生: 3名, 会員外: 1名, 賛助招待: 2名, 賛助優待: 0名, 有料遠隔参加: 2名)

## (7) 第82回セミナー「一挙手一投足」に反応する実世界インタフェース技術」

期日: 2013年11月28日(木) 中央大学 (有料遠隔セミナーを実施)

オーガナイザー: 姜 山 (富士通研究所)

講師: 稲見昌彦 (慶應義塾大学), 寺田 努 (神戸大学), 白鳥貴亮 (Microsoft Research Asia), 藤波香織 (東京農工大学)

参加者: 33名 (会員 10名, 学生: 4名, 会員外: 6名, 賛助招待: 5名, 賛助優待: 1名, 有料遠隔参加: 7名)

※のべ参加者 382名 (会員: 107名, 学生: 129名, 会員外: 66名, 賛助招待: 53名, 賛助優待: 16名, 有料遠隔参加: 12名)

## 2. 共催事業

本会に関連する国内行事 (講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等) の共催・協賛・後援について審査を行った.

共催 9件, 協賛 81件, 後援 9件, その他 3件 (2013年1月~12月 31日審査分)

国内共催事業:

## (1) 第18回ロボティクスシンポジウム

期 日: 2013年3月14日(木)・15日(金)

会 場: 日本の宿古窯 (こよう)

実行委員長: 妻木勇一 (山形大学)

プログラム委員長: 岡田昌史 (東京工業大学)

## (2) ロボカップジャパンオープン 2013 東京

期 日: 2013年5月4日(土)~6日(月)

会 場: 玉川大学玉川学園キャンパス (東京都)

主 催: 東京ロボカップ日本委員会

## (3) フォーラム「カー・ロボティクス~安全・安心を支える先進技術~」

期 日: 2013年5月22日(水)

会 場: パシフィコ横浜 (神奈川県)

企 画: カー・ロボティクス調査研究委員会 (自動車技術会・日本ロボット学会)

## (4) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2013



- 期 日：2013年6月15日(土)・16日(日)  
 会 場：仙台市科学館(宮城県)  
 主 催：ロボット競技会実行委員会、メカトロで遊ぶ会
- (5) 第13回レスキューロボットコンテスト  
 期 日：2013年8月10日(土)・11日(日)  
 会 場：神戸サンボーホール(兵庫県)  
 主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会、兵庫県、神戸市、(株)神戸商工貿易センター、読売新聞社
- (6) RSNP コンテスト  
 期 日：2013年2013年9月4日(水)～6日(金)  
 会 場：首都大学東京 南大沢キャンパス  
 主 催：ロボットサービスイニシアチブ(RSi)
- (7) 社会実装ロボット教育プログラム  
 期 日：2013年9月5日(木)  
 会 場：首都大学東京 南大沢キャンパス  
 主 催：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
- (8) 災害対応ロボティクスシンポジウム  
 期 日：2013年9月6日(金)  
 会 場：首都大学東京 南大沢キャンパス  
 主 催：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
- (9) つくばチャレンジ2013  
 期 日：2013年11月17日(日)(本走行)  
 会 場：つくばエクスプレス線つくば駅近辺公道  
 主 催：つくば市、つくばチャレンジ実行委員会

**IX. その他[庶務理事]**

**1. 会員状況**

	平成25年12月31日 現在	平成24年12月31日 現在	増 減
名誉会員	11名	11名	増減なし
正 会 員	2,904名	2,896名	8名増
学生会員	1,117名	1,187名	70名減
終身会員	60名	45名	15名増
賛助会員	60団体(86口)	59団体(85口)	1団体(1口)増

**2. 総会**

- (1) 第3回定時総会  
 会期：平成25年3月19日(火)  
 会場：本郷瀬川ビル  
 出席代議員数：47名(うち委任状提出：30名)(代議員総数：55名、総会成立の定数28名以上、議題の可決に必要な出席代議員数37名以上)  
 議題：平成24年度の事業報告・決算報告、平成25年度の事業計画・予算計画、平成25年度役員の選任  
 上記について審議し、議決した。

**3. 委員会**

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長
会誌編集委員会	松野文俊
欧文誌委員会	新井史人
事業計画委員会	吉田英一
国際委員会	長谷川泰久
研究協議会	大隅 久
第32回学術講演会実行委員会	倉爪 亮
表彰委員会	高西淳夫
第28回学会誌論文賞選考小委員会	大隅 久
第2回Advanced Robotics Best Paper Award選考小委員会	大隅 久

第19回実用化技術賞選考小委員会	高西淳夫
第7回功労賞選考小委員会	高西淳夫
第6回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	大隅 久
第29回研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫
第4回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫
外部表彰選考小委員会	大隅 久
体制整備委員会	小平紀生
アドバイザーボード	小平紀生
次世代構想委員会	原田達也
会員5000名拡大計画委員会	高西淳夫
コンプライアンス委員会	小平紀生
情報システム管理委員会	高西淳夫
学術講演会管理推進委員会	大隅 久
学会発行誌構想検討委員会	高西淳夫
情報発信企画委員会	大隅 久

4. 役員の選出  
 平成25年度の理事・監事を選出した。
5. 運営報告会、理事会  
 (1) 平成25年9月4日(水)に運営報告会を開催し、会務報告を行った。  
 (2) 平成25年度中に10回理事会を開催し、会務の審理と処理を行った。
6. フェロー、名誉会員の選任  
 9名のフェローを選任した。
7. 学会の基盤強化  
 新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化を目指し、広報活動、産業貢献活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上を図った。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出若年層への啓発活動を継続実施した。
8. 学会サービスの向上  
 情報発信企画委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実化、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上を図った。
9. 規約等の制定・整備  
 体制整備委員会にて、学会運営の効率化・適正化、会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施した。体制整備委員会を中心に、理事会運営や委員会の活動明確化、学会運営の基本などについて見直しを行い、委員会の新設・改廃を行うとともに、規程を作成した。
10. 将来検討  
 次世代構想委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組んだ。
11. 事務局運営  
 体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備した。
12. 学会インフラの整備  
 ・理事会向けのWeb承認システムの運用を開始した。  
 ・遠隔地から理事会に参加できるように、Web会議システムの運用を開始した。
- X. 事業報告に係る附属明細書  
 事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

## 【第2号議案】

## 平成25年度決算報告

貸借対照表  
平成25年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	184,433,116	196,578,668	△ 12,145,552
現金	6,746,592	2,382,899	4,363,693
普通預金	38,573,871	49,051,706	△ 10,477,835
振替口座	4,739,529	10,797,809	△ 6,058,280
通常貯金	996,913	1,001,922	△ 5,009
定期預金	133,376,211	133,344,332	31,879
未収会費	2,008,000	1,810,000	198,000
未収金	4,668,800	4,141,536	527,264
前払金	628,029	498,683	129,346
立替金	0	10,979	△ 10,979
仮払金	9,112,064	2,654,912	6,457,152
流動資産合計	200,850,009	205,694,778	△ 4,844,769
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	7,777,080	7,228,422	548,658
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定財産合計	28,777,080	28,228,422	548,658
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	31,493,180	30,944,522	548,658
資産合計	232,343,189	236,639,300	△ 4,296,111
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,076,552	1,952,305	124,247
前受会費	22,952,000	23,503,000	△ 551,000
預り金	480,556	429,438	51,118
仮受金	6,478,844	2,216,912	4,261,932
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	32,057,952	28,171,655	3,886,297
2. 固定負債			
退職給付引当金	7,777,080	7,228,422	548,658
固定負債合計	7,777,080	7,228,422	548,658
負債合計	39,835,032	35,400,077	4,434,955
III 正味財産の部			
一般正味財産	192,508,157	201,239,223	△ 8,731,066
(うち特定資産への充当額)	( 21,000,000)	( 21,000,000)	( 0)
正味財産合計	192,508,157	201,239,223	△ 8,731,066
負債及び正味財産合計	232,343,189	236,639,300	△ 4,296,111

貸借対照表内訳表  
平成25年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	2,450,844	4,000,000	177,982,272		184,433,116
未収会費			2,008,000		2,008,000
未収金			4,668,800		4,668,800
前払金			628,029		628,029
仮払金			9,112,064	6,450,844	2,661,220
流動資産合計	2,450,844	4,000,000	194,399,165	6,450,844	194,399,165
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	5,685,460	190,147	1,901,473		7,777,080
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	5,685,460	190,147	22,901,473		28,777,080
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631		2,716,100
固定資産合計	5,761,724	215,352	25,516,104		31,493,180
資産合計	8,212,568	4,215,352	219,915,269	6,450,844	225,892,345
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			2,076,552		2,076,552
前受会費			22,952,000		22,952,000
預り金			480,556		480,556
仮受金	2,450,844	4,000,000	28,000	6,450,844	28,000
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	2,450,844	4,000,000	25,607,108	6,450,844	25,607,108
2. 固定負債					
退職給付引当金	5,685,460	190,147	1,901,473		7,777,080
固定負債合計	5,685,460	190,147	1,901,473		7,777,080
負債合計	8,136,304	4,190,147	27,508,581	6,450,844	33,384,188
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469		0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	192,508,157		192,508,157
正味財産合計	0	0	192,508,157		192,508,157
負債及び正味財産合計	8,212,568	4,215,352	219,915,269	6,450,844	225,892,345



## 正味財産増減計算書

平成 25 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	6,137	6,055	82
特定資産受取利息	6,137	6,055	82
② 受取入金	481,000	578,000	△ 97,000
正会員受取入金	101,000	95,000	6,000
学生会員受取入金	380,000	483,000	△ 103,000
③ 受取会費	42,054,000	42,378,000	△ 324,000
正会員受取会費	29,670,000	30,210,000	△ 540,000
学生会員受取会費	5,104,000	5,288,000	△ 184,000
賛助会員受取会費	7,280,000	6,880,000	400,000
④ 事業収益	47,683,269	46,694,574	988,695
申込金事業収益	3,045,000	3,720,000	△ 675,000
参加費事業収益	11,504,000	11,968,000	△ 464,000
懇親会参加費事業収益	2,182,000	2,580,000	△ 398,000
展示料事業収益	3,960,000	3,118,571	841,429
講演概要集広告料事業収益	340,000	260,000	80,000
セミナー参加費事業収益	2,730,300	2,947,000	△ 216,700
会誌掲載料事業収益	16,972,725	14,080,350	2,892,375
会誌広告料事業収益	3,385,070	4,836,486	△ 1,451,416
会誌頒布事業収益	1,723,260	1,793,430	△ 70,170
編集料事業収益	1,840,914	1,390,737	450,177
⑤ 受取補助金等	0	1,400,000	△ 1,400,000
受取国庫補助金	0	1,400,000	△ 1,400,000
⑥ 雑収益	2,161,848	3,456,415	△ 1,294,567
受取利息	40,063	53,408	△ 13,345
雑収益	2,121,785	3,403,007	△ 1,281,222
経常収益計	92,386,254	94,513,044	△ 2,126,790
(2) 経常費用			
① 事業費	70,718,175	81,378,523	△ 10,660,348
給料手当	8,532,386	8,642,948	△ 110,562
臨時雇賃金	5,836,860	5,538,097	298,763
退職給付費用	456,368	544,606	△ 88,238
福利厚生費	1,118,051	1,107,645	10,406
旅費交通費	1,485,399	3,271,281	△ 1,785,882
通信運搬費	4,510,820	4,590,015	△ 79,195
消耗什器備品費	0	329,400	△ 329,400
消耗品費	1,513,040	1,417,327	95,713
印刷製本費	20,107,787	19,912,173	195,614
賃借料	598,499	7,989,519	△ 7,391,020
諸謝金	1,985,538	2,039,634	△ 54,096
租税公課	575,435	1,052,914	△ 477,479
支払負担金	9,738,812	8,087,507	1,651,305
委託費	12,087,634	13,935,829	△ 1,848,195
雑費	2,171,546	2,919,628	△ 748,082
② 管理費	30,329,145	33,228,600	△ 2,899,455
給料手当	7,832,934	7,668,143	164,791
臨時雇賃金	3,203,517	3,520,817	△ 317,300
退職給付費用	92,290	184,306	△ 92,016
福利厚生費	416,827	395,576	21,251
会議費	516,530	418,940	97,590
旅費交通費	1,186,247	1,132,740	53,507
通信運搬費	866,494	1,392,791	△ 526,297
消耗品費	569,473	654,690	△ 85,217
印刷製本費	949,972	727,055	222,917
光熱水料費	352,074	323,647	28,427
賃借料	6,650,121	7,234,561	△ 584,440

保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	469,088	505,943	△ 36,855
諸会費	336,060	334,800	1,260
諸謝金	1,564,500	1,655,430	△ 90,930
租税公課	36,965	63,686	△ 26,721
委託費	3,698,491	4,984,284	△ 1,285,793
雑費	1,581,562	2,025,191	△ 443,629
経常費用計	101,047,320	114,607,123	△ 13,559,803
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,661,066	△ 20,094,079	11,433,013
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,661,066	△ 20,094,079	11,433,013
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 8,661,066	△ 20,094,079	11,433,013
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,731,066	△ 20,164,079	11,433,013
一般正味財産期首残高	201,239,223	221,403,302	△ 20,164,079
一般正味財産期末残高	192,508,157	201,239,223	△ 8,731,066
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	192,508,157	201,239,223	△ 8,731,066





正味財産増減計算書内訳表

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

No. 1

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
事 業 収 益	0	22,081,055	1,840,914	0	0	0	0	23,921,969
申 込 金	0	0	0	0	0	0	0	0
参 加 費	0	0	0	0	0	0	0	0
懇親会参加費	0	0	0	0	0	0	0	0
展 示 料	0	0	0	0	0	0	0	0
講演概要集広告料	0	0	0	0	0	0	0	0
セミナー参加費	0	0	0	0	0	0	0	0
会誌掲載料	0	16,972,725	0	0	0	0	0	16,972,725
会誌広告料	0	3,385,070	0	0	0	0	0	3,385,070
会誌頒布収入	0	1,723,260	0	0	0	0	0	1,723,260
編 集 料	0	0	1,840,914	0	0	0	0	1,840,914
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	0	22,081,055	1,840,914	0	0	0	0	23,921,969
(2) 経常費用								
事 業 費	3,310,262	28,955,322	7,195,481	1,608,976	9,280,758	833,529	0	51,184,328
給 料 手 当	0	5,381,941	0	0	2,555,949	0	0	7,939,890
臨時雇賃金	113,000	44,800	0	39,000	3,909,660	0	0	4,106,460
退職給付費用	0	373,308	0	0	73,831	0	0	447,139
福利厚生費	0	749,052	0	0	328,001	0	0	1,077,053
旅費交通費	6,280	226,800	142,380	42,540	313,500	3,150	0	734,650
通信運搬費	30,800	3,793,353	2,236	21,085	171,834	241,150	0	4,043,458
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	494,761	11,025	1,020	7,071	173,283	0	0	687,160
印刷製本費	203,690	15,772,618	0	276,060	0	390,600	0	16,642,968
賃 借 料	17,745	0	0	297,050	0	0	0	314,795
諸 謝 金	307,195	0	0	694,694	0	0	0	1,001,889
租 税 公 課	0	356,396	0	0	0	0	0	356,396
支払負担金	207,000	0	3,335,520	180,589	0	0	0	3,723,109
委 託 費	1,929,791	2,075,389	3,624,325	0	141,750	218,399	0	7,989,654
雑 費	0	170,640	90,000	50,887	1,612,950	197,230	0	2,121,707
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0
会 議 費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0

印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0
賃 借 料	0	0	0	0	0	0	0	0
保 険 料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0
諸 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
諸 謝 金	0	0	0	0	0	0	0	0
租 税 公 課	0	0	0	0	0	0	0	0
委 託 費	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 費	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	3,310,262	28,955,322	7,195,481	1,608,976	9,280,758	833,529	0	51,184,328
当期経常増減額	-3,310,262	-6,874,267	-5,354,567	-1,608,976	-9,280,758	-833,529	0	-27,262,359
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-3,310,262	-6,874,267	-5,354,567	-1,608,976	-9,280,758	-833,529	0	-27,262,359
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	3,310,262	6,874,267	5,354,567	1,608,976	9,280,758	833,529	0	27,262,359
繰引前当期一増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等調整額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表  
平成 25 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日まで

No. 2

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他 1 学術 講演会	他 2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	6,137	0	6,137
特定資産受取利息	0	0	0	0	6,137	0	6,137
受取入会金	0	0	0	0	481,000	0	481,000
正会員入会金	0	0	0	0	101,000	0	101,000
学生会員入会金	0	0	0	0	380,000	0	380,000
受取会費	0	0	0	0	42,054,000	0	42,054,000
正会員会費	0	0	0	0	29,670,000	0	29,670,000
学生会員会費	0	0	0	0	5,104,000	0	5,104,000
賛助会員会費	0	0	0	0	7,280,000	0	7,280,000
事業収益	21,031,000	2,730,300	0	23,761,300	0	0	47,682,269
申込金	3,045,000	0	0	3,045,000	0	0	3,045,000
参加費	11,504,000	0	0	11,504,000	0	0	11,504,000
懇親会参加費	2,182,000	0	0	2,182,000	0	0	2,182,000
展示料	3,960,000	0	0	3,960,000	0	0	3,960,000
講演概要集広告料	340,000	0	0	340,000	0	0	340,000
セミナー参加費	0	2,730,300	0	2,730,300	0	0	2,730,300
会誌掲載料	0	0	0	0	0	0	16,972,725
会誌広告料	0	0	0	0	0	0	3,385,070
会誌頒布収入	0	0	0	0	0	0	1,723,260
編集料	0	0	0	0	0	0	1,849,914
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	2,161,848	0	2,161,848
受取利息	0	0	0	0	40,063	0	40,063
雑収益	0	0	0	0	2,121,785	0	2,121,785
経常収益計	21,031,000	2,730,300	0	23,761,300	44,702,985	0	92,386,254
(2) 経常費用							
事業費	16,738,703	2,795,144	0	19,533,847	0	0	70,718,175
給料手当	594,496	0	0	594,496	0	0	8,532,386
臨時雇賃金	1,525,400	205,000	0	1,730,400	0	0	5,836,860
退職給付費用	9,229	0	0	9,229	0	0	456,368
福利厚生費	40,998	0	0	40,998	0	0	1,118,051
旅費交通費	111,920	638,829	0	750,749	0	0	1,485,399
通信運搬費	294,389	172,973	0	467,362	0	0	4,510,820
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	259,969	565,911	0	825,880	0	0	1,513,040
印刷製本費	3,405,733	59,086	0	3,464,819	0	0	20,107,787
賃借料	0	283,704	0	283,704	0	0	598,499
諸謝金	222,741	760,908	0	983,649	0	0	1,985,538
租税公課	162,535	56,504	0	219,039	0	0	575,435
支払負担金	5,993,213	22,490	0	6,015,703	0	0	9,738,812
委託費	4,097,980	0	0	4,097,980	0	0	12,087,634
雑費	20,100	29,739	0	49,839	0	0	2,171,546
管理費	0	0	0	0	30,329,145	0	30,329,145
給料手当	0	0	0	0	7,832,934	0	7,832,934
臨時雇賃金	0	0	0	0	3,203,517	0	3,203,517
退職給付費用	0	0	0	0	92,290	0	92,290
福利厚生費	0	0	0	0	416,827	0	416,827
会議費	0	0	0	0	516,530	0	516,530
旅費交通費	0	0	0	0	1,186,247	0	1,186,247
通信運搬費	0	0	0	0	866,494	0	866,494
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0

消耗品費	0	0	0	0	569,473	0	569,473
印刷製本費	0	0	0	0	949,972	0	949,972
光熱水料費	0	0	0	0	352,074	0	352,074
賃借料	0	0	0	0	6,650,121	0	6,650,121
保険料	0	0	0	0	6,000	0	6,000
支払手数料	0	0	0	0	469,088	0	469,088
諸会費	0	0	0	0	336,060	0	336,060
諸謝金	0	0	0	0	1,564,500	0	1,564,500
租税公課	0	0	0	0	36,965	0	36,965
委託費	0	0	0	0	3,698,491	0	3,698,491
雑費	0	0	0	0	1,581,562	0	1,581,562
経常費用計	16,738,703	2,795,144	0	19,533,847	30,329,145	0	101,047,320
評価損益等調整前 当期経常増減額	4,292,297	-64,844	0	4,227,453	14,373,840	0	-8,661,066
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	4,292,297	-64,844	0	4,227,453	14,373,840	0	-8,661,066
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-4,292,297	64,844	0	-4,227,453	-23,034,906	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	-8,661,066	0	-8,661,066
法人税、住民税 及び事業税	0	0	0	0	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	-8,731,066	0	-8,731,066
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	201,239,223	0	201,239,223
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	192,508,157	0	192,508,157
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	192,508,157	0	192,508,157



## 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

## (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	7,228,422	548,658	0	7,777,080
定 期 預 金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	28,228,422	548,658	0	28,777,080

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	7,777,080	—	( 0)	( 7,777,080)
定 期 預 金	21,000,000	( 0)	( 21,000,000)	—
合 計	28,777,080	( 0)	( 21,000,000)	( 7,777,080)

## 附 属 明 細 書

## 1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	7,228,422	548,658	0	0	7,777,080

## お 知 ら せ

財 産 目 録  
平成 25 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	6,746,592	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	14,348,451	
〃 みずほ銀行本郷支店	10,821,072	
〃 みずほ銀行本郷支店	1,535,171	
〃 りそな銀行本郷支店	623,268	
〃 三井住友銀行小石川支店	11,245,909	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,240,051	
定期預金 三菱 UFJ 信託銀行本店	60,081,629	
定期預金 みずほ銀行本郷支店	18,054,531	
振替口座 ゆうちょ銀行	4,739,529	
通常貯金 ゆうちょ銀行	996,913	
未収会費 平成 25 年度会費 302 名, 1 口	2,008,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	4,668,800	
前払金 平成 26 年 1 月分事務所家賃他	628,029	
仮払金 IROS2013, IROS2014	2,661,220	
流動資産合計		194,399,165
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金)三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	7,777,080	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		28,777,080
(2) その他固定資産		
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		31,493,180
資産合計		225,892,345
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 人材派遣費 12 月分	547,654	
12 月分給与(細田分)	500,000	
封入・郵送費(日本ロボット学会誌 31-10)	249,162	
交通費(理事会他)	246,710	
公認会計士・税理士顧問料 11, 12 月分	136,500	
コピー機使用料他	396,526	
前受会費 会費前受分	22,952,000	
預り金 源泉所得税	121,273	
〃 住民税	14,300	
〃 社会保険料	344,983	
仮受金 会費誤入金分	28,000	
未払法人税等 平成 25 年分法人住民税	70,000	
流動負債合計		25,607,108
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	7,777,080	
固定負債合計		7,777,080
負債合計		33,384,188
正味財産		192,508,157





## 監 査 報 告

私たち監事は、平成25年1月1日から平成25年12月31日までの第三期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

## (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

## (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成26年2月20日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 榊原 伸介 ㊞  
監 事 油田 信一 ㊞

## 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成25年1月1日から平成25年12月31日までの第三期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成26年2月20日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 榊原 伸介 ㊞  
監 事 油田 信一 ㊞

## 【報告資料1】

## 平成26年度 事業計画

(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

## I. シンポジウム（継続事業1）【事業理事 他】

## 1. ロボット教育セミナー

第2回ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室（仮）」

期日：2014年7月（予定）

オーガナイザ：中本秀一（(株)東芝）

## II. 学会誌（継続事業2）【学会誌理事】

第32巻1号より10号を、1月、3月、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月に刊行し、会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

第32巻1号 震災対応 レスキューロボットの活動を振り返って I（仮）

第32巻2号 震災対応 レスキューロボットの活動を振り返って II（仮）

第32巻3号 知能化する家電（仮）

第32巻4号 機構知によるロボットの新機能の実現（仮）

第32巻5号 月・惑星探査ローバ（仮）

第32巻6号 ロボット工学における最適化手法（仮）

第32巻7号 第31回日本ロボット学会学術講演会論文特集号I

第32巻8号 第31回日本ロボット学会学術講演会論文特集号II

第32巻9号 ヒューマンインターフェースとしてのロボット（仮）

第32巻10号 高速ビジョンと応用展開（仮）

前年度に引き続き、魅力的な特集号の企画などについて取り組む。また、学術講演会論文特集号に加え、特定テーマで企画した論文特集号を企画する。さらに、論文と解説記事を融合した総合特集として、「製造業向けロボット総合特集号」の発行を予定している。一般記事に関しては、会議報告、コラム記事やロボット分野の著名な方とのインタビュー記事などの掲載を継続して行うとともに、新たにリレー解説や講座なども検討する。論文については、ScholarOne Manuscriptの4月からの導入に合わせ、適切な論文が迅速に採録できるように、新たに導入する査読方法を開始する。査読方法などで問題が生じた場合は適宜対応し、1年をめぐりにScholarOne Manuscriptの新しい査読システムを軌道に乗せる。

広告に関しては、大変厳しい状況ではあるが、収入目標を450万円と設定し、特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた具体的な取り組みを行う。

中長期的ビジョンとしては、和文誌・欧文誌という単純な括りで考えるのではなく、学会の発展を優先して改善策を検討して行く。例えば、学会誌では、教育論文、企業論文、解説論文などで新しい領域を開拓し、ロボット研究のすそ野を広げて行く。また、和文誌の解説を英訳して欧文誌に掲載する、あるいは欧文誌の優れた論文の和訳を和文誌に掲載するなど、和文誌と欧文誌の密な連携を模索する。日本語によるより深い議論が必要な領域では、将来的にも学会誌の存在価値は高いと考えられる。

## III. 欧文誌（継続事業3）【欧文誌理事】

## 1. 欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり、2014年度においてはVol. 28を年24号発行することを計画している。

28/1-2	2014	Jan	Regular Issues
28/3-4		Feb	Cutting Edge of Robotics in Japan 2014 および Regular Issue
28/5-6		Mar	Biologically Inspired Robotics(1)および(2)
28/7-8		Apr	Regular Issues
28/9-10		May	Regular Issues
28/11-12		Jun	Biologically Inspired Robotics(3)および Regular Issue
28/13-14		Jul	Regular Issues
28/15-16		Aug	Regular Issues
28/17-18		Sep	Disaster Response Robotics および Regular Issue

28/19-20	Oct	Regular Issues
28/21-22	Nov	Selected Papers from IROS2013 および Regular Issue
28/23-24	Dec	Regular Issues

2. 編集体制

2014年度は、新井史人編集長の下、シニアエディター4名を含む20名の欧文誌委員会メンバーを中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2011年度から年間18号としたことで、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られたが、その後も論文投稿数は増加しており、バックログを解消して出版サイクルを早める必要がある。このため、2014年からはページ数を1,512頁から1,680頁に増加し、発行のタイミングを年間18号から24号に変更する。一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的な認知度のさらなる向上、掲載される論文の質の向上を図るとともに、Citation Indexの評価(インパクトファクター)の向上を目指す。さらに、国際貢献の意味も含め、国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として、投稿料無料を堅持する。

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS2014 に合わせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画などを通して、国際的認知度を高める努力を行っていく。また国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また、国際委員会の活動に協力し、他学会との協力体制強化、パンフレットの国際会議場などでの配布、AR宣伝のためのポスターの制作と配布、ウェブの英語コンテンツ充実、等を実施する。

IV. 調査・研究(継続事業4) [企画理事]

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会、研究専門委員会による活動を行う。

a. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種別
生活創政支援ロボティクス研究会	小笠原司	2013年5月	—	II種
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012年4月	—	I種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	—	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	2012年3月	I種
RT機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009年4月	2013年4月	I種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	2013年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009年4月	2013年4月	I種
ロボット教育研究専門委員会	琴坂信哉	2008年8月	2012年8月	II種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008年4月	2012年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	2012年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	大日方五郎	2008年4月	2012年4月	I種
ロボティック・サイエンス研究専門委員会	國吉康夫	2008年4月	2012年4月	I種

ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	2013年1月	II種
----------------------------------	-------	---------	---------	-----

b. 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
産学連携委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月
東日本大震災関連調査研究委員会	川村貞夫	2011年11月

c. 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
教育研究専門委員会(仮名)	未定	2014年(予定)
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰(継続事業5) [企画理事]

1. 表彰

第32回学術講演会において学会誌論文賞, Advanced Robotics Best Paper Award, 実用化技術賞, 研究奨励賞, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞, 功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降もFA財団の論文賞への候補論文の推薦、財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、その他の外部団体からの各賞の推薦依頼についても積極的に対応していく。

VI. 国際(継続事業6) [国際理事]

1. 学術講演会における国際セッションの有料化

第32回日本ロボット学会学術講演会においては、国際セッションをOSとして扱い、参加登録費を課して試行する。ただし、従来どおり登壇資格は問わない。

2. 国際交流活動

- (1) ARSUサミット会議の継続的な開催(第9回)
- (2) アジアロボットサミットの合意事項の推進
  - ・若手研究者ネットワーク
  - ・ロボット教育プログラムの確立とその標準化
  - ・参加国の拡大

3. 国際会議関連

本会にかかわる国際会議の共催/協賛および下記共催会議の運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2014, 日程: 2014年8月26日~29日, 会場: エディンバラ, 英国
- ・IROS2014, 日程: 2014年9月14日~18日, 会場: シカゴ, 米国

RO-MAN2014では学際的研究を対象とした賞のスポンサーを検討する。

IROS2014では、参加者に向けて企業がプレゼンを行う“RSJ Power Lunch”を実施する。

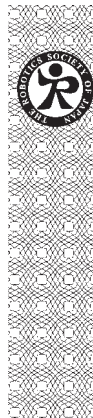
4. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
  - ・対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
  - ・IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
  - ・英語による広報活動の展開(HP, パンフレット)

VII. 学術講演会(その他事業1) [事業理事]

1. 学術講演会・シンポジウム等

- (1) 第32回学術講演会
  - 期 日: 2014年9月4日(木)~6日(土)
  - 会 場: 九州産業大学



実行委員長：倉爪 亮（九州大学）  
 プログラム委員長：榊 泰輔（九州産業大学）

Ⅷ. 講習会（その他事業2）〔事業理事〕

1. ロボット工学セミナー開講予定

- (1) 第83回ロボット工学セミナー「ロボットに使える実用画像処理」  
 期 日：2014年5月（予定）  
 オーガナイザ：小林貴訓（埼玉大学）
- (2) 第84回ロボット工学セミナー「ロボットの作り方2014～移動ロボットプラットフォームの製作と走行制御～」  
 期 日：2014年6月（予定）  
 オーガナイザ：城間直司（茨城大学）、富沢哲雄（電気通信大学）
- (3) 第85回ロボット工学セミナー「ヒトの機能と美をデザインする」  
 期 日：2014年7月（予定）  
 オーガナイザ：村井昭彦（東京大学）
- (4) 第86回ロボット工学セミナー「極限環境で活かされるロボット技術とその実用化」  
 期 日：2014年9月（予定）  
 オーガナイザ：石上玄也（慶應義塾大学）
- (5) 第87回ロボット工学セミナー「医療機器としてのロボットの実用化と事業化」  
 期 日：2014年10月（予定）  
 オーガナイザ：中村亮一（千葉大学）
- (6) 第88回ロボット工学セミナー「自動運転実用化に向けた技術・法整備の動向」  
 期 日：2014年10月（予定）  
 オーガナイザ：松本高斉（(株)日立製作所）
- (7) 第89回ロボット工学セミナー「ロボット・ベンチャー企業の最前線」  
 期 日：2014年11月（予定）  
 オーガナイザ：松下光次郎（大阪大学）

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。  
 国内共催事業（予定を含む）：

- (1) 第19回ロボティクスシンポジウム  
 期 日：2014年3月14日(木)・15日(金)  
 会 場：有馬グランドホテル（兵庫県神戸市）  
 実行委員長：中後大輔（関西学院大学）  
 プログラム委員長：中村太郎（中央大学）、和田正義（東京農工大学）
- (2) ロボカップジャパンオープン2014  
 期 日：未定  
 開 催 地：未定
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2014  
 期 日：未定  
 開 催 地：未定
- (4) 第14回レスキューロボットコンテスト  
 期 日：未定  
 開 催 地：未定

Ⅸ. その他〔庶務理事 他〕

1. 第4回定時総会  
 会 期：平成26年3月20日  
 会 場：本郷瀬川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	松野文俊	田中一男
欧文誌委員会	新井史人	尾形哲也
事業計画委員会	吉田英一	尾崎功一
国際委員会	長谷川泰久	前田雄介
研究協議会	大隅 久	大隅 久

第32回学術講演会実行委員会	倉爪 亮	倉爪 亮
表彰委員会	高西淳夫	高西淳夫
第28回学会誌論文賞選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第2回 Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第19回実用化技術賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第7回功労賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第6回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第29回研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第4回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
外部表彰選考小委員会	大隅 久	大隅 久
体制整備委員会	小平紀生	小平紀生
アドバイザーボード	小平紀生	小平紀生
次世代構想委員会	原田達也	未 定
会員5000名拡大計画委員会	高西淳夫	高西淳夫
コンプライアンス委員会	小平紀生	小平紀生
情報システム管理委員会	高西淳夫	高西淳夫
学術講演会管理推進委員会	大隅 久	大隅久
学会発行誌構想検討委員会	高西淳夫	高西淳夫
情報発信企画委員会	大隅 久	大隅 久

3. 役員の選出  
 平成26年度の理事・監事を選出する。
4. フェロー、名誉会員の選任  
 フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。
5. 学会の基盤強化  
 新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化を目指し、広報活動、産業貢献活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上を図る。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出、若年層への啓発活動を継続実施する。
6. 学会サービスの向上  
 情報発信企画委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実化、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上をはかる。
7. 規約等の制定・整備  
 体制整備委員会にて、学会運営の効率化・適正化、会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。
8. 将来検討  
 次世代構想委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。
9. 事務局運営  
 体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料 2】

平成 26 年度予算計画

No.1

収支予算書 (損益ベース) 平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日 (公益事業)

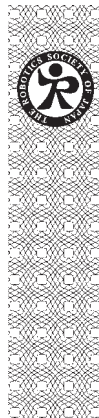
科 目	実施事業等会計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益								0
特定資産受取利息								0
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金								0
学生会員入会金								0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費								0
学生会員会費								0
賛助会員会費								0
事業収益	0	20,950,000	1,950,000	0	0	0	0	22,900,000
申込金								0
参加費								0
懇親会参加費								0
展示料								0
講演概要集広告料								0
セミナー参加費								0
会誌掲載料		15,750,000						15,750,000
会誌広告料		3,600,000						3,600,000
会誌頒布収入		1,600,000						1,600,000
編集料			1,950,000					1,950,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								0
受取地方公共団体補助金								0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								0
雑収益								0
経常収益計	0	20,950,000	1,950,000	0	0	0	0	22,900,000
(2) 経常費用								
事業費	404,000	27,963,740	7,667,000	1,734,000	6,370,685	1,973,000	0	46,112,425
給料手当	0	4,607,490	0	0	3,548,685	0		8,156,175
臨時雇賃金	100,000	39,000	0	39,000	0	0		178,000
退職給付費用	0	225,675	0	0	159,300	0		384,975
福利厚生費	0	475,575	0	0	335,700	0		811,275
旅費交通費	0	203,000	144,000	560,000	288,000	500,000		1,695,000
通信運搬費	0	4,000,000	200,000	22,000	177,000	24,000		4,423,000
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0		0
消耗品費	220,000	11,000	3,000	87,000	17,000	0		338,000
印刷製本費	0	15,750,000	0	140,000	0	399,000		16,289,000
賃借料	18,000	0	0	124,000	0	150,000		292,000
諸謝金	40,000	0	0	700,000	0	0		740,000
租税公課	0	642,000	0	0	0	0		642,000
支払負担金	25,000	0	3,466,000	37,000	0	0		3,528,000
委託費	0	1,950,000	3,854,000	0	145,000	0		5,949,000
雑費	1,000	60,000	0	25,000	1,700,000	900,000		2,686,000
管理費	0	0	0	0	0	0		0
給料手当								0
臨時雇賃金								0
退職給付費用								0
福利厚生費								0
会議費								0
旅費交通費								0

通信運搬費								0
消耗什器備品費								0
消耗品費								0
印刷製本費								0
光熱水料費								0
賃借料								0
保険料								0
支払手数料								0
諸会費								0
諸謝金								0
租税公課								0
委託費								0
雑費								0
経常費用計	404,000	27,963,740	7,667,000	1,734,000	6,370,685	1,973,000	0	46,112,425
当期経常増減額	-404,000	-7,013,740	-5,717,000	-1,734,000	-6,370,685	-1,973,000	0	-23,212,425
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-404,000	-7,013,740	-5,717,000	-1,734,000	-6,370,685	-1,973,000	0	-23,212,425
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	404,000	7,013,740	5,717,000	1,734,000	6,370,685	1,973,000	0	23,212,425
前期正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税・住民税 及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

No.2

収支予算書 (損益ベース) 平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日 (その他事業)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益					6,000	0	6,000
特定資産受取利息					6,000	0	6,000
受取入会金	0	0	0	0	550,000	0	550,000
正会員入会金					100,000	0	100,000
学生会員入会金					450,000	0	450,000
受取会費	0	0	0	0	41,784,000	0	41,784,000
正会員会費					29,560,000	0	29,560,000
学生会員会費					5,184,000	0	5,184,000
賛助会員会費					7,040,000	0	7,040,000
事業収益	22,890,000	3,040,000	0	25,930,000	0	0	48,830,000
申込金	0				0	0	0
参加費	17,400,000			17,400,000			17,400,000
懇親会参加費	2,850,000			2,850,000			2,850,000
展示料	2,210,000			2,210,000			2,210,000
講演概要集広告料	430,000			430,000			430,000
セミナー参加費		3,040,000		3,040,000			3,040,000
会誌掲載料					0		15,750,000
会誌広告料					0		3,600,000
会誌頒布収入					0		1,600,000
編集料					0		1,950,000
受取補助金等	200,000	0	0	200,000	0	0	200,000
受取国庫補助金					0		0
受取地方公共 団体補助金	200,000			200,000			200,000
雑収益	0	0	0	0	3,820,000	0	3,820,000





受取利息			0	40,000	0	40,000
雑収益			0	3,780,000	0	3,780,000
経常収益計	23,090,000	3,040,000	0	26,130,000	46,160,000	95,190,000
(2)経常費用						
事業費	15,474,835	2,199,000	0	17,673,835	0	63,786,260
給料手当	595,585	0		595,585	0	8,751,760
臨時雇賃金	2,000,000	154,000		2,154,000		2,332,000
退職給付費用	13,275	0		13,275	0	398,250
福利厚生費	27,975	0		27,975	0	839,250
旅費交通費	300,000	280,000		580,000	0	2,275,000
通信運搬費	120,000	137,000		257,000	0	4,680,000
消耗什器備品費	0	0		0	0	0
消耗品費	100,000	500,000		600,000	0	938,000
印刷製本費	3,938,000	154,000		4,092,000	0	20,381,000
賃借料	2,100,000	175,000		2,275,000	0	2,567,000
諸謝金	228,000	625,000		853,000	0	1,593,000
租税公課	330,000	93,000		423,000	0	1,065,000
支払負担金	4,285,000	23,000		4,308,000	0	7,836,000
委託費	1,416,000	0		1,416,000	0	7,365,000
雑費	21,000	58,000		79,000	0	2,765,000
管理費	0	0	0	0	30,043,740	30,043,740
給料手当				7,792,240	0	7,792,240
臨時雇賃金				3,319,000	0	3,319,000
退職給付費用				132,750	0	132,750
福利厚生費				779,750	0	779,750
会議費				570,000	0	570,000
旅費交通費				2,000,000	0	2,000,000
通信運搬費				375,000	0	375,000
消耗什器備品費				0	0	0
消耗品費				517,000	0	517,000
印刷製本費				876,000	0	876,000
光熱水料費				336,000	0	336,000
賃借料				6,889,000	0	6,889,000
保険料				6,000	0	6,000
支払手数料				507,000	0	507,000
諸会費				343,000	0	343,000
諸謝金				1,711,000	0	1,711,000
租税公課				46,000	0	46,000
委託費				1,540,000	0	1,540,000
雑費				2,304,000	0	2,304,000
経常費用計	15,474,835	2,199,000	0	17,673,835	30,043,740	93,830,000
評価損益等調整前 当期経常増減額	7,615,165	841,000	0	8,456,165	16,116,260	1,360,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	7,615,165	841,000	0	8,456,165	16,116,260	1,360,000
2. 経常外増減の部						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-7,615,165	-841,000	0	-8,456,165	-14,756,260	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	1,360,000	1,360,000
法人税、住民税 及び事業税	0	0	0	0	70,000	70,000
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	1,290,000	1,290,000

【第3号議案】

平成26年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の9名を平成26年度新役員として推挙したい。

任期	平成26年度役員		
	平成24年3月～ 平成26年3月	平成25年3月～ 平成27年3月	平成25年3月～ 平成27年3月
理事		小平紀生	
理事		高西淳夫	
理事		大隅 久	
理事	塚越秀行	岩城 敏	
理事	大明準治	細田祐司	沢崎直之
理事	三治信一郎	塩沢恵子	井上康之
理事	加賀美聡	小林 宏	石田勇一
理事	松野文俊	田中一男	王 碩玉
理事	新井史人	尾形哲也	倉林大輔
理事	吉田英一	尾崎功一	小林英津子
理事	山口 亨	倉爪 亮	石川 潤
理事	長谷川泰久	前田雄介	平井慎一
監事	榑原伸介	油田信一	平井成興